

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	25184
課題名	非小細胞肺癌における免疫チェックポイント阻害薬の新規バイオマーカーの探索
研究期間	2026年3月23日(実施許可日)～2028年3月31日
研究の対象	当院で2013年1月1日より2025年12月31日までに当院で非小細胞肺癌と診断された患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報(詳細:年齢、性別、診断名、治療内容、検査結果、画像診断結果、その他の遺伝子変異解析情報) <input checked="" type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織(対象臓器等名:診断した肺癌組織) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他( )
研究の意義、目的	<p>進行した非小細胞肺癌では、免疫チェックポイント阻害薬という新しいタイプの治療薬が標準的に使われており、従来の化学療法よりも長く生きられる可能性があります。ただし、この薬が効果を示す患者さんは限られていて、今使われている「PD-L1」という検査だけではどなたに効くかを正確に予測できません。さらに、特定の遺伝子異常がある患者さんには分子標的薬という内服薬がよく効きますが、必ず時間とともに効かなくなり、その後の治療選びが難しくなる場合があります。</p> <p>そこで本研究では、患者さんから採取した病理組織を使って、腫瘍やその周りにある細胞に含まれる免疫に関連するタンパク質(目印)を詳しく調べます。それらの目印と免疫チェックポイント阻害薬の効き目や予後との関係を過去の記録から分析し、治療が効きやすいかどうかを見分ける新しい指標(バイオマーカー)を見つけることを目的としています。こうした指標が見つければ、免疫療法が効果を期待できる患者さんを事前に選びやすくなり、期待できない患者さんには別の治療を早く選択できるようになると考えています。</p>
研究の方法	<p>上記の目的を達成するため、当院で2013年1月1日から2025年12月31日までに非小細胞肺癌と診断され、病理検体が保存されている患者さん約200例を対象とします。対象患者さんの診療録から年齢、性別、病理診断、遺伝子検査結果、治療内容、画像診断、免疫チェックポイント阻害薬の有無と効果などの情報を収集し、診断時の病理組織検体の余剰未染スライドを用いてPD-L1等の免疫関連分子について免疫組織化学染色(IHC)を行います。得られたIHC結果と患者さんの臨床情報や治療成績を照合し、免疫チェックポイント阻害薬の効果を予測するバイオマーカーとしての有用性を検証します。なお、研究対象者の個人情報は匿名化し、個人が特定されないように厳重に管理します。</p>

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 所在地：旭川市緑が丘東2-1-1-1 電話：0166-69-3290 旭川医科大学 内科学講座(呼吸器・脳神経内科学分野) 准教授 佐々木 高明</p>
---------	---